

太陽を味方につけた町

# 北竜町ひまわり油再生プロジェクト

～「小さな町」と「大きな企業」の連携～



夏に咲く一面のひまわり畑。北竜町のシンボルであるひまわりは観光素材として大きな役割を担っています。そのひまわりを使った特産品をつくるため、北竜町は平成28年1月、日清オイリオグループ(株)と連携し、「ひまわり油」を再生するプロジェクトをスタートさせました。編集部では北竜町を訪れこのプロジェクトに携わる方々からお話を伺いました。

(取材者 地域戦略課 日野石、高野)

## ひまわり畑の「ひまわり油」

昭和55年、北竜町では、農協の女性部を中心として、安全で健康的な食生活を旨とする活動の中で、食用油の自給自足を目的にひまわりの栽培が開始されました。作られたひまわり油は当初、町内の農村家庭で消費されていましたが、昭和57年には一般向けの販売を開始しました。同時期、畑一面に広がるひまわり畑の美しさが有名になり、ひまわりは北竜町のシンボルとなってきました。

しかし、ひまわり自体の人気の高まりに反比例して、ひまわり油の販売は伸び悩み、平成15年には搾油設備の老朽化から製造を中止。北竜町は特産品を失い、ひまわりは観光客の目を惹きつけるだけの存在になりました。そして、観光客からは、徐々に「北竜町にしかない、ひまわりにちなんだ食べ物やお土産が無いこと」に不満が出るようになってきました。

## 動き出したひまわり油再生プロジェクト

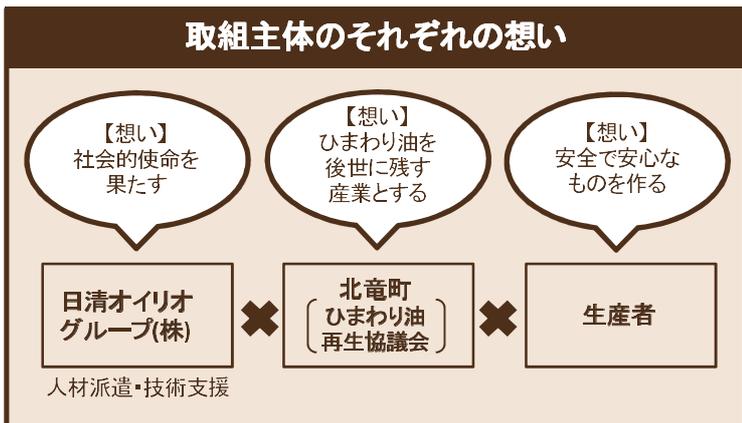
平成27年7月、北竜町は総務省地域創造アドバイザーの曾根原久司氏を招き、町おこしをテーマとした講演を開催しました。この講演を通じて、北竜町がひまわりを活用した特産品づくりに悩んでいることを知った曾根原氏は、かねてより交流のあった日清オイリオグループを町に紹介し、これをきっかけに、北竜町と日清オイリオグループの連携の取組が始まりました。

平成28年1月には、北竜町、町議会、ひまわり油生産協議会、JA、商工会、観光協会等で構成する「北竜町ひまわり油再生協議会」が設立され、コーディネーターとして曾根原氏が参加。また、日清オイリオグループから北竜町に「ひまわり油再生専門官」として東郷弘之氏が派遣されました。これにより、北竜町、日清オイリオグループ、生産者を中心とする連携体制が確立し、本格的にプロジェクトが動き出しました。

## それぞれの想い

連携により始まったプロジェクトですが、それぞれの取組主体が信念とも言える「想い」を持っていました。

北竜町は、日本一のひまわりの里から「ひまわり油」を全国の食卓へ届け



たいという想い。また、ひまわり観光の経済波及効果を地域経済に結びつけ「ひまわり油」を北竜町の財産として未来の子ども達に残していきたいという想いです。

また、日清オイログループには、食用油メーカーとして長年蓄積したノウハウにより、地域の活性化プロジェクトに携わることで社会的使命を果たしたいという想いがありました。同時に、安心・安全な国産原料を使った製品づくり・販売を行うことが、精油事業の原点に立ち戻る体験となり、自社製品の開発や販売活動のプラスになるという考えもありました。

そして、北竜町の生産者には、安心・安全な食を支えるという強い想いがあります。これは、北竜町が平成2年に掲げた「国民の生命と健康を守る安全な食糧生産の町」宣言によるもので、町民全体が認識している北竜町の誇りとして守り続けている精神です。

こうした強い想いが原動力となって、平成28年1月にスタートした「ひまわり油再生プロジェクト」は、同年5月栽培をスタート、9月収穫、10月から翌1月に搾油・精製し、2月に商品販売と、他に類を見ないスピードで進みました。



▲昨年12月に完成した「燦燦ひまわり油」

### プロジェクトの今後

連携の勢いはまだまだ続いています。今年度は作付面積を6ヘクタールから8ヘクタールに増やし、5月に栽培をスタートしました。昨年以上の収量を目指すとともに、新商品として、より風味のある一番搾り生オイルの開発・発売を計画しています。また、将来的にひまわり油を食用以外（化粧品や美容オイルなど）の用途開発も視野にいられています。

北竜町としては今後、栽培技術の研究を進め、ひまわり油の生産効率や収益を上げ、生産者・事業主にとって魅力的な産業として確立させて、将来的に町の経済の中心とさせることを目標としています。

## 生産者に聴く



JAきたそらち北竜地区  
代表理事 北清 裕邦さん

「ひまわり」という名称に  
込められた意味

【北清裕邦さん】

ひまわりは北竜町の誇りで、北竜町の農産物の商標には、「ひまわりライス」、「ひまわり蕎麦」など「ひまわり」という名称がつけられています。

北竜町では、これまで安全・安心な農作物を作る努力を積み重ねてきており、それが今年度、第46回日本農業賞集団組織の部大賞受賞という形になりました。「ひまわり」という名称には「北竜町の安心・安全な農作物」という意味が込められているのです。

ひまわり油再生の話聞いた時は、過去の経験から、正直苦労するのではという思いの方が先に立ちました。しかし、ひまわりは北竜町の宝であり、そのひまわり自体を原料にした製品づく

くりですから、やるしかないと考えました。  
もちろん安心・安全なものを作るというコンセプトは、ひまわりの栽培においても変わりません。

全く新しいひまわり油

【竹林由美子さん】

昨年、日清オイロさんから日本で売っている油の原料のほとんどが海外からの輸入品であると説明を受けて、驚くのと同時に、安心で安全な国産材料を使った油を作りたいと思えました。

30年前は、自分で育てたひまわりから油を作って使用していました。しかし、その頃のひまわり油は、においがきつくて使いやすいものではありませんでした。ですから、今回、日清オイロさんで精製され完成したひまわり油を試食した際、さらっとした口当たりに驚きました。

商品が完成してから、1週間もない



JAきたそらち女性部  
北竜支部長 竹林 由美子さん

中で商品発表に向け料理メニューを考  
えました。この油の特色を活かして、  
できるだけ生で油を食べることができ  
るメニューとしました。ライスサラダ、  
タコのカルパッチョ、おからのパウン  
ドケーキなど、どれもご好評いただき  
ました。

北竜町産のひまわりで安全・安心な  
ひまわり油が出来て本当に良かったと  
思っています。

ひまわり油を使った試作メニュー



▲(左上)おからパウンドケーキ (右)ライスサラダ  
(左下)タコのカルパッチョ

安心・安全な原料を生産すること

【板垣義一さん】

今回作付けた「コバルトE」とい  
う品種は、本当に油作りに合っている  
品種で、過去に作っていた品種より栽  
培しやすいことには驚きました。

昨年のひまわりの生産では、5月に  
播種してから6月の天気が非常に悪く、  
気をもみました。また、8月には大き



▲除草剤を使わずに除草作業をする様子

な台風があつて、ひまわりが倒れてし  
まわないか心配しましたが、草丈が比  
較的低くて茎が太いという品種の特徴  
のせいかほとんどが倒れずに残ってく  
れました。

一番苦労したのは、除草剤を使わず  
に雑草を取り除く作業で、大人数でな  
んとか乗り切った状態です。害虫がつ  
いたり病気をしたりしないか不安はあ  
りました。殺虫剤は使用していません  
。手間はかかりますが、今後安全  
心・安全にこだわって生産していき  
たいと思います。



農事組合法人ほのか  
板垣 義一さん

生産者目線で今後必要なこと

【藤井二郎さん】



北竜町ひまわり油生産協議会  
会長 藤井 二郎さん

昨年は、生産者の中でも、新たな品  
種の特徴が分からないため、暗中模索  
の状態でした。そこで、既に同品種の  
栽培実績がある名寄の農業者の方から  
のアドバイスをいただき、栽培方法を  
学ばせてもらいました。

搾油に当たっては、よく乾燥させ、  
酸価度を上げないで、収穫後、すぐに  
原油を搾ったことで、一番搾りでもく  
せが少ない上質な油が出来上がしまし  
た。

今後は、生産者の数を増やして、作  
付面積を今年の8ヘクタールから20ヘ  
クタールを目指したいと考えています。  
また、商品開発が軌道に乗ってくれば  
作付面積を増やす後押しになると考え  
ています。

そのために必要なことは、生産効率  
を上げられるように栽培方法のマンニ  
アルを作成することです。除草剤を使

われない方針を守りながら、労働負担を  
下げる栽培方法を研究することで、未  
来の生産者を増やすことにつながると  
思っています。販売ルートができて原  
料確保ができてくれば、今度はビジネ  
ス(商売・流通)部門を担える人材も  
必要です。

北竜町の誇りである「ひまわり」を  
子ども達に残すため、一つひとつ取組  
を進めていきたいと思っています。

北竜町産ひまわり油の特徴

血中の悪玉コレステロールを減らす効果のある  
オレイン酸が豊富 (100gm当たり80%程度)

健康維持に欠かせないビタミンEが豊富  
オリーブオイルの約8倍

